

1. 実験の背景

- 駐車場から龍源寺間歩までの距離が長く、高低差も大きいいため、車いす等によるアクセスがしにくい箇所がある。
- 移動制約者にとって当該地域の観光が困難な状況である。
- 石見銀山遺跡がより魅力的な観光地となるためには、移動制約者に対する移動手段の確保が必要である。

2. 実験の目的

- 歩行者、自転車、移動制約者向け交通サービスが混在する安全な道路空間の整備を行う。
- タブレット端末等を用いた観光案内により、徒歩や自転車による来訪者との情報格差を解消する。
- 観光案内、ウェブサイト、観光協会等にてPRを行い、移動制約者の来訪を促す。

3. 実験内容

- (1) ゴルフカート、ミニバンを用いた運行実験の実施
 - 石見銀山公園～龍源寺間歩間の2.3kmを往復する交通サービスを運行
 - 歩行者と自転車との錯綜現象を観測し、走行安全性を把握
 - 来訪者、地元住民、ドライバーへアンケート、ヒアリングを実施
- (2) タブレット端末を用いた観光案内の実施
 - GPS位置情報により、観光案内を自動で行うシステムを構築
 - 移動制約者に対する利用促進、観光地の魅力向上を検証



図-1 ゴルフカート乗車状況



図-2 ミニバン



図-3 実験箇所位置図

4. 実験結果

- (1) ゴルフカート、ミニバンを用いた運行実験の実施
 - 実験内容について、「大変満足」、「やや満足」と回答した割合90%以上(目標値80%)
 - 沿道住民アンケートで、ゴルフカートの走行を許容した割合89.7%(目標値50%)
 - 来訪者アンケートで、ゴルフカートの走行を許容した割合97.4%(目標値50%)
 - ゴルフカートの道路走行について、否定的な意見はなし
 - 錯綜分析の結果から、ゴルフカートの安全性を確認
 - 狭幅員であれば、ゴルフカートの走行の方が、交通安全上望ましい
- (2) タブレット端末を用いた観光案内の実施
 - 交通サービス利用者のうち、社会実験が来訪のきっかけになった割合13.2%(目標値75%)
 - タブレット端末を用いた観光案内が来訪のきっかけになった割合40.0%(目標値50%)

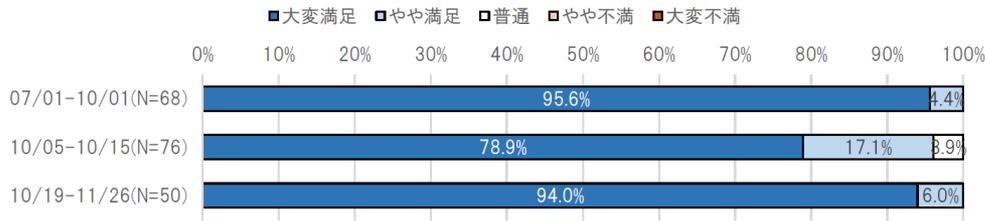


図-4 実証実験の満足度

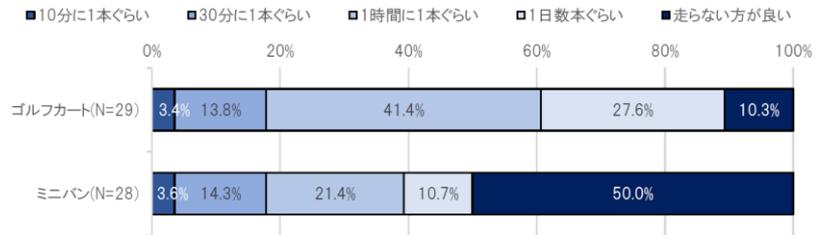


図-5 ゴルフカート(上)/ミニバン(下)が走行する許容頻度(沿道住民アンケート)

5. 本格実施に向けた課題

- (1) ゴルフカート、ミニバンを用いた運行実験の実施
 - 運行形態(運行方法、ルート、対象者、運賃、運行主体、便数等)の検討
 - 地元住民との合意形成
- (2) タブレット端末を用いた観光案内の実施
 - 観光案内の場所、内容、方法
 - 多言語化への対応